

◆ 2021 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：社会芸術・寺山支部 炭焼の会

24A-15

代表者：支部長 萩原 哲哉

URL : <https://artngo16.wixsite.com/socialart>

1. 活動が必要とされた状況

コロナ渦が続き、市民活動が停滞する中で、地域相互の活性化へのきっかけと揺動が必要とされた。当初炭焼きは2回と控えめに計画。苦しい状況の中にも関わらず、計3回実施できた。これは、「野良の藝術」のイベントの実施で、参加者からの期待がブーメラン効果として働き、活性化の起爆剤となったものと思われる。



環境講演会 講師：石井秀樹

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ・ 第一回炭焼（炭窯）8月4日（水）窯詰・着火、8月8日（日）口止、8月18日（水）窯開、会員内研修。参加者6名
- ・ 第二回炭焼（伏せ焼）11月12日（金）～13日（土）／薪割り体験、13日（土）伏せ焼開始、11月21日（日）窯開(1)、12月17日（金）窯開(2) * 「野良の藝術 2021 さぎ山の現場Ⅱ『鎮魂と再起』」のワークショップと実施。参加者12名
- ・ 第三回炭焼（炭窯）3月5日（土）薪割り、3月6日（日）窯詰・着火、3月11日（金）口止、3月20日（日）窯開（予定）。「野良の藝術 2021 さぎ山の現場Ⅱ『鎮魂と再起』」のクラウドファンディング応募者ワークショップ。参加者10名
- ・ 環境講演会「土と森の恵みと見沼の暮らし」11月13日（土）講師：石井秀樹（福島大学准教授）。参加者30名
- ・ 農のワークショップ：芋掘り体験／新米の竈炊き体験 11月14日（日）講師：萩原さとみ（ファーム・インさぎ山）参加者30名



伏せ焼：窯詰

3. 活動の成果

コロナ渦の最中であって、炭焼の会が単独の活動とは別に、2年連続して地域一体型活動に挑戦した。本年度11月に開催した「野良の藝術 2021 さぎ山の現場Ⅱ『鎮魂と再起』」では、6年ぶりにファーム・インさぎ山と共催した。昨年度は「野良の藝術 2021 天空と大地」で見沼ファーム21や未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会との合同企画であった。これら地域協働の連携に新しい可能性が開けると同時に、地球環境の問題と擦り合わせから、炭焼の今日的役割を見極める機会となった。



伏せ焼：窯開け

4. 今後に残された課題

炭焼の会では主力会員の高齢化が進み、後継者確保・養成が切迫している。これは農家の後継者問題や地方の衰退とつながっている。突破口を開くには、明確な将来展望の提示と、その実践にあるだろう。だが、未だ炭焼の不思議な現象とその技術の習得にあり、炭（土壌改良剤）、廃煙（木酢液）、灰（アルカリ剤）として有機農法での活用を基本にしている。今後、熱分解の科学を紐解くことで、新たな探求と活用法の開発が課題となる。そこで、環境講演会とワークショップとの組み合わせで、今後の展開への可能性を開きたい。